新聞で遊ぼう

ハロー お仕事

病院では医師や看護師、事務職員のほかにも、私たちの健康を守るために働いている人がいます。専門的な医療機器を整備して医師を手助けする技師です。中学生記者は、胃カメラなど体の内部を診る内視鏡の専門技師、馬場全美さんへ、医療を支える仕事を教わってきました。

内視鏡技師

機器整備に細心の気配り

馬場さんが勤めるのは安芸郡にある病院の消化器専門の山下病院。馬場さんは「内視鏡と聞いても分からないと思うから、まず見てみようか！」と記者たちを検査の部屋に案内してくれました。

内視鏡は、口や鼻から入れる胃カメラと、お尻から入れる大腸カメラに分かれます。「これが胃カメラ」と馬場さんが両手に持って示したのは、コントローラーから長く延びた黒い管のような胃カメラ。管は砂時計型を変えると食道を通り、先端のカメラで体の内部を撮影し、その映像は大型モニターに表示されます。管の中から器具を体内に送り込めば、胃がんやポリープの切除手術もできます。

豚の腸を入間の大腸に見立て、内視鏡を使ったポリープの切除を実演してくれました。

管は砂時計型を変えると食道を通り、先端のカメラで体の内部を撮影し、その映像は大型モニターに表示されます。管の中から器具を体内に送り込めば、胃がんやポリープの切除手術もできます。

豚の腸を人間の大腸に見立て、内視鏡を使ったポリープの切除を実演してくれました。

また、順天の注意を引い、内視鏡の先から細いワイヤ状の器具を出し、ポリープの撮影を始めます。器具に高周波の電流を通すとポリープは焦げて取れ、記者たちは「おおっ！」と驚きの声をあげました。

医師の治療支える

実は内視鏡技師は、患者の体に内視鏡を入れて操作することができません。それができるのは医師だけで、技師はアシスタント。意外に難しい記者が「自分で操作してみたい」と思うことは？と尋ねると、馬場さんは「先生の指示を聞いてやりがいを感じています」とのこと。

そのためには、日々進歩する機器や治療の知識が欠かせません。また、検査や手術中は医師が次は何を必要とするか、先回りして考えます。「『何々ちょうだい』と言われてから探すようではだめ」とキッパリ。検査や手術にかかる時間は五分～二時間程度で、患者が多い日は一日中、立って仕事をします。

すべての内視鏡の機能がきちんと働いているか、検査の前にしっかりチェックするのは馬場さんの大事な役目。使用後は、きれいに洗って消毒する仕事もあります。

専門の知識に誇り

馬場さんは技師としての誇りを語ります。

「患者さんは技師に検査技師としての誇りを語ります。

「患者さんは技師に検査技師としての誇りを語ります。

「患者さんは技師に検査